

崎 定 長 検 一級 さん

Vol.1

参りました 二カ月間のプレッシャー

船津 義海 さん

合格率四・八％……。長崎歴史文化観光
検定の最難関を突破した一級ホルダー。
その卓越した識見には、なにやら「一言
ありそ」です。
ざっくばらんに寄稿願いました。

長崎検定の一級試験、いやあー参りました。

受験の動機は、自分の知識程度を試してみたいことと、受験を機会に勉強をやり直したいという軽い気持ちだったのです。それが受験日を境に一転、重苦しいプレッシャーが私に二カ月間付きまとうことになりました。

というのは、受験当日の私の姿が、テレビ・新聞で報道されたからです。受験した席が悪かった。広い受験会場の最前列の、さらに特別に飛び出した席に当たってしまいました。ただでさえ目立つ場所に加え、白髪の年寄りが座っているから、よけいに目立ったわけでしょう。すっかり知人・友人の知るところとなりました。「合格間違いなしやろ」「大丈夫さ」という激励の声が、なんと辛く聞こえたことか。不合格になったら、その噂はたちまち広がります。そうになると、さるくガイドも公民館講師も続けられないと真剣に考えました。ですから、合格通知を受けたときは、嬉しさよりもホッ

として肩の力が抜けたというのが本音です。

私がボランティア観光ガイドを始めて八年になります。はじめは、修学旅行生に浦上地区の原爆遺構を案内する『平和学習』が中心でしたが、「'06長崎さるく博」を契機に市内各所を案内する機会がぐんと増えました。勉強の量も急増し、ガイドのレベルを高める転機になったと思います。

いろいろなお客さまと接してきましたが、「面白かった」「楽しかった。ありがとう」といわれるのが一番の喜びです。これに加え、自分の頭のトレーニングになり、かつ健康にも役立つのがボランティア観光ガイドの妙味ですね。

「さるく型観光」は、地域の魅力を再発見するすばらしい手法です。各地にどんどん広がっており、長崎市は先進地です。「さるく型観光」では、地域とお客さまの接点になるガ



【プロフィール】

1937年4月、佐世保市生まれ。71歳。
1997年、三菱重工業長崎造船所を定年退職。
2000年春からボランティア観光ガイド活動を始める。
現在、さるくガイド、出島ガイド。自主研修グループの市西公民館講座「歴史文化探訪」講師、同公民館学習グループ「わが町再発見」講師、同公民館運営協力委員会会長など。

イドが重要な役割を果たします。お客さまは、ガイドの印象を通じてその観光地を評価する。良くも悪くもガイドしだいというわけですね。ポイントは、ガイドの資質。今後の課題はガイドの資質向上、とりわけマナー向上とガイド内容の正確さに取り組むことです。『両刃の剣』の怖さも持っている「さるく型観光」。その危険な側面をどのように解決していくのか、具体的な答えを出していくのが先進地・長崎の役割だと思っています。